



ETA HOLDINGS CO., LTD.

Crypto Messenger Wallet & Inou :
北米市場向け追加開発とマーケティング強化
November, 2020



不正に関する提訴などで荒れた大統領選
今後のキーワードは
「不正対策技術」と「透明性の高いSNS」



2020年11月より開始された大統領選では、
トランプ大統領やそのサポーターがtwitterやFacebookによって検閲を受けたという指摘もあり、
フォロワーが減ったという真偽不明の情報もあり混乱していた。
正しく情報が拡散されなくなるといった状況もあったとみられている。
激戦州に限って期限間際の郵便投票による急激なバイデン票の増加などもあったとみられ、
これによってトランプ大統領のチームが各州で再集計などを求めることとなるなど大きな混乱が起きた。

課題1:投票における不正対策の甘さ

課題2:透明性の高いSNSの不在

米大統領選の課題とその解決策

大統領選で露呈した課題を解決するためには、ブロックチェーン技術を使った不正対策および透明性の高いSNSがあれば推進が可能となる。
現在はそうした対策に非常に大きな需要がある。

そこで.....

Inouの機能を拡張

米国における営業強化

この2点の施策によって、課題を解決するため、
Inouの機能を拡張し、位置情報と紐付いた簡易な投票システムを搭載することを検討する。
さらに投票をトークンで行うことを可能とすることを模索し、不正と改竄を行うことができないプロダクトとする。
同時にプライベートモードを搭載しVIPの暗殺を防止するなどの機能を検討する。

これによってInouとCMWTの基本機能を活かした状態で強化し、さらに米国において営業を強化することで
将来的に大きな収益を見込む。

既存の技術的資産を発展させ、米国での需要増を追い風に。

追加開発の方向性

Crypto Messenger Wallet

CMWT

Blockchainメッセージサービス＆
複数の暗号資産が利用可能なWallet



Blockchain SNS “Inou”



Blockchain技術によって、成りすましや虚偽
の位置情報を出す事の出来ない、進化型SNS



投票機能とトークン消費による投票

簡易な投票機能を実装し、トークンを消費（無料モードも搭載する）することで投票できるようにする

位置情報を含めたKYC

投票などの行動の前提条件に特定の位置情報を付け加えることで、KYCをさらに強化する

プライベートモード

位置情報の漏洩がリスクになるVIPなどに用途を限定した位置情報を公開はしないプライベートモード

タイムライン

第一段階

2020年～2021年初頭

Inou/CMWTの追加開発と拡散

Inou/CMWTの日米における営業の強化を行う。平行してInou/CMWTの追加開発および機能の拡張を行う。段階的に共和党支持者、保守派の意見を収集しさらなる改善を行いプロダクトとしての完成度を高める。

第二段階

2021年夏

ブロックチェーン投票システムリリース

北米メディア、および日本のメディア、さらにJBLCの体制を整えることで、共和党支持団体などにて新開発するブロックチェーン投票システムを導入いただく。さらに不正対策の基礎研究としてQFSの研究も行い連携できるようにする。

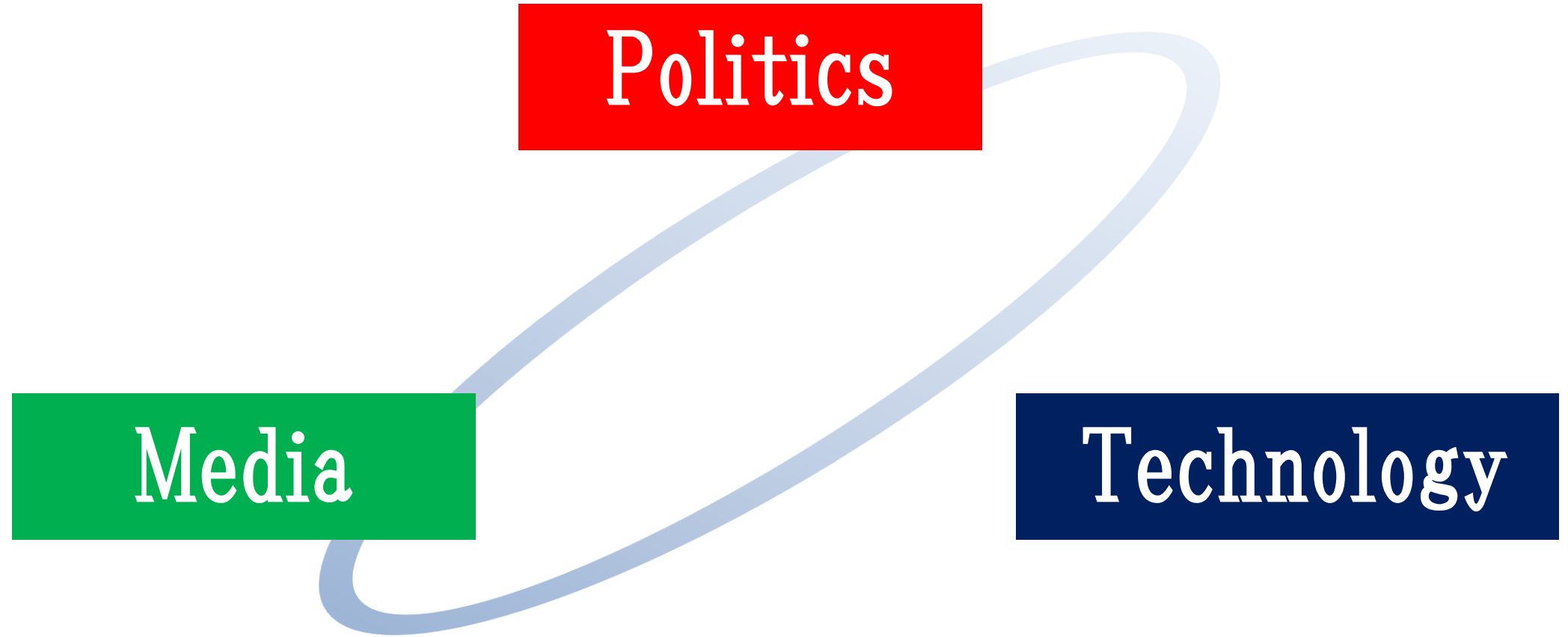
第三段階

2024年

米国公的機関による投票システム採用

2024年の次の大統領選においてブロックチェーン投票が可能なInou/CMWTについて、第二段階までの下地をもとに投票システムを公的機関に採用いただくことを目標とする。それによって公正かつ客観的な形で大統領選なども支援できることを目標とし、Inou/CMWTの世界的な利用を促進する。

三位一体の強力なプロジェクト推進



技術・政治・メディアが一体となったトライアングルを構成することで、マーケティング力を高め、日米双方で強力に推進する

各プレイヤーの役割

Politics

一般社団法人JBLC
在米保守団体

米国保守団体などをカウンターに持つ一般社団法人JBLCは主に保守団体との調整・交渉を担当する

Media

北米保守メディア
日本保守メディア

日米に渡る保守メディアとの連携によって、強力かつ、より広範なマーケティングおよびプロモーション施策を実施



ETA HOLDINGS CO., LTD.

代表の長きにわたる在米経験、マーケティング経験を活かし、ETA社がトライアングルの事務局的役割を担い、ビートHグループの北米事業を強力にサポート

Technoluoogy



BEATCHAIN

すでに開発済のInou/CMWTや各種API、Wallap構想などを有機的に連携させ、さらに拡張し需要増に対応